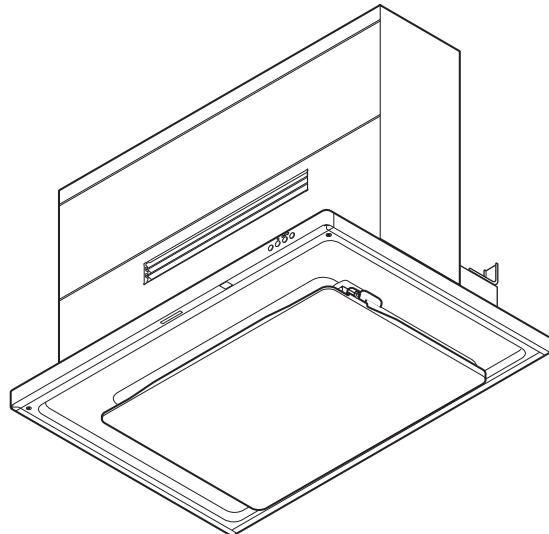


IHクッキングヒーター専用 室内循環フード 取付説明書



もくじ

安全上のご注意	2～3
取り付け上のお願い	4
取り付け前の調査と準備	5～6
各部のなまえ	7
付属品	8
製品寸法図	9
取り付けかた	10～23
1. 付属品の確認	10
2. 本体の準備	10
3. 本体の取り付け	11～13
4. 循環ユニットの取り付け	14
5. 電気配線	15
6. 循環幕板の取り付け	16～18
7. フィルターの取り付け	19～21
8. ルーバーの調整	22
9. 取扱説明書およびオイルパック 固定テープの取りはずし	22
10. 試運転	23
11. お客様への説明	23

販売店・工事店様へ：
この取付説明書は取り付け後、
施工様へ必ずお渡しください。

取り付け前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、
正しく取り付けをおこなってください。

1J03 3781



* 1 J 0 3 3 7 8 1 *

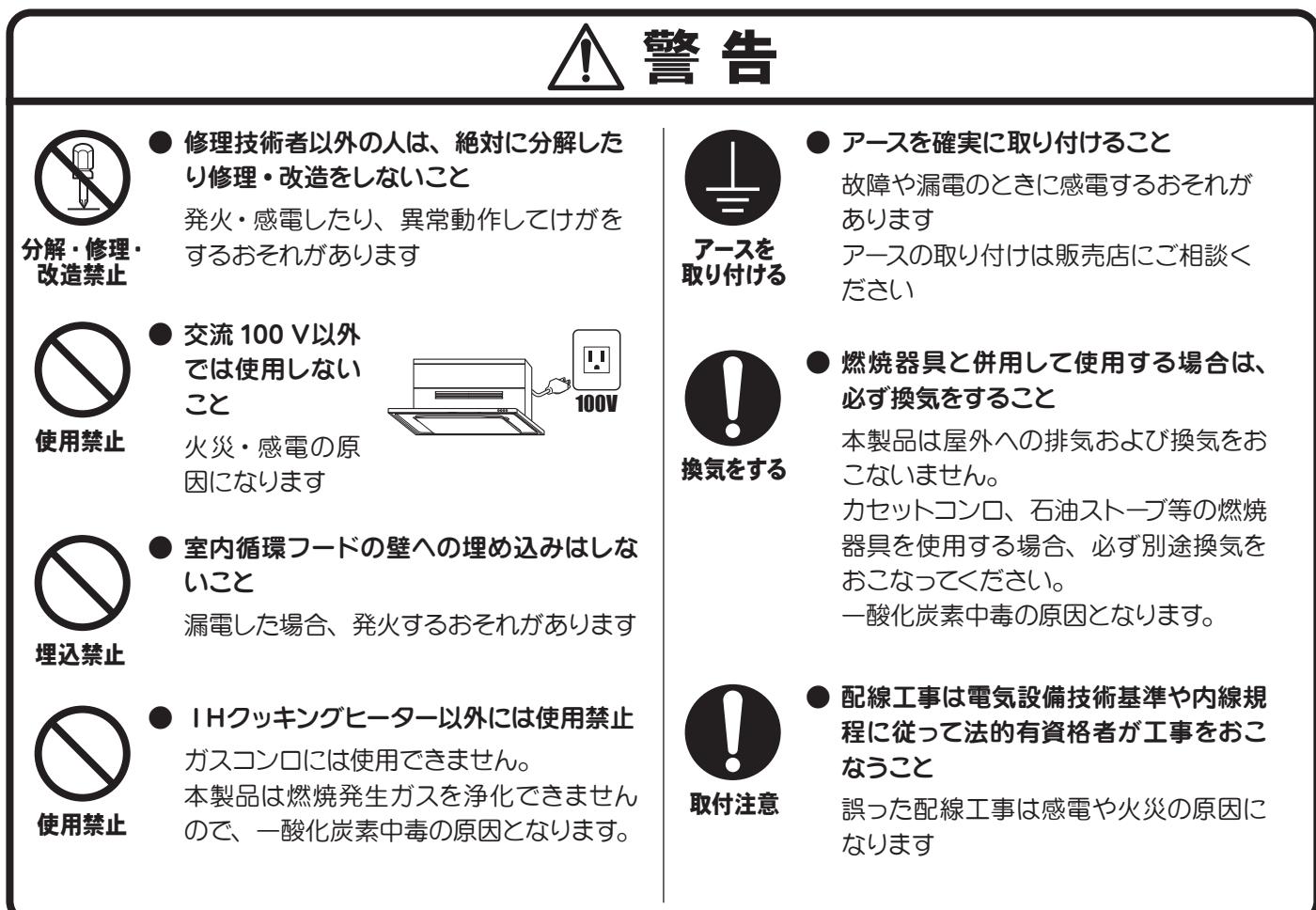
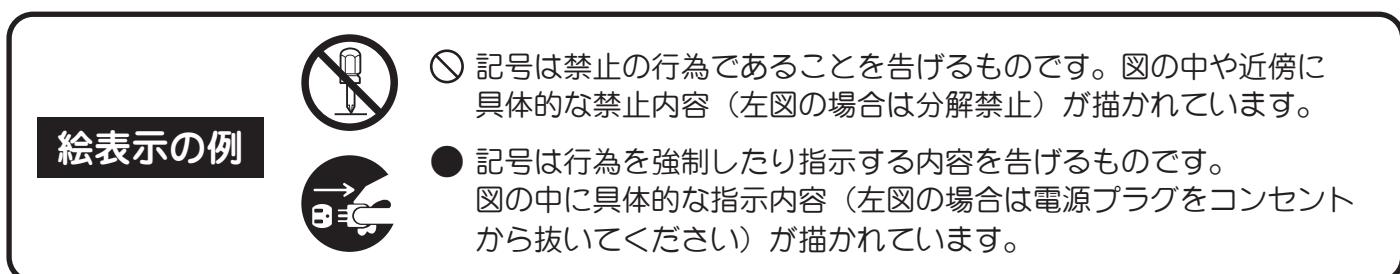
■ 安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

! **警告** : 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

! **注意** : 人が軽傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



安全上のご注意

⚠ 警告



取付注意

- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること

火災・故障の原因になります



取付注意

- 室内循環フードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること

漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

- 室内循環フード本体と可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと

火災などの原因になります

詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注意



使用禁止

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと

（浴室用換気扇をお使いください）

感電および故障の原因になります



使用禁止

- 施工時に換気目的で本製品を運転しないこと

内装工事等で有機溶剤（塗料・シンナー・ボンド等）を使用中や使用直後に運転すると、脱臭フィルター等に吸着・蓄積され、実際の運転中に薬剤成分・臭いが吹出しが放され、健康を害するおそれがあります

施工時は別途換気をおこなってください



取付禁止

- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと

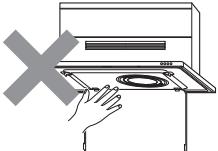
火災・故障の原因になります



接触禁止

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと

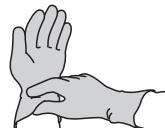
けがをするおそれがあります



手袋をする

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること

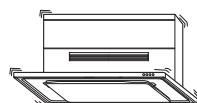
鋼板の切り口や角だけがをするおそれがあります



取付注意

- 室内循環フードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

- 部品の取り付けは確実におこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

- 作業は2人以上でおこなうこと

室内循環フードは約40／42kgの重さがあります

※ この重さには循環ユニットが含まれています

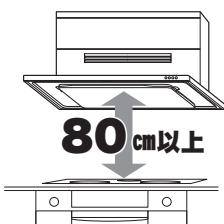


取り付け上のお願い

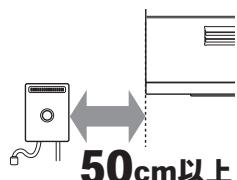
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事
【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事
【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- IHクッキングヒーターの幅は室内循環フードの幅以内のものをご使用ください。
IHクッキングヒーターは室内循環フードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 室内循環フード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用座付ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
また、室内循環フード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

- 室内循環フードは IH クッキングヒーターの真上に取り付けてください。

なお、室内循環フード取付高さは、室内循環フードの下端が IH クッキングヒーターの真上 80cm 以上になるようにしてください。



- 室内循環フード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。

- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警告



分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと

発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



埋込禁止

- 室内循環フードの壁への埋め込みはしないこと

漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること

火災・故障の原因になります



取付注意

- 室内循環フードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること

漏電した場合、発火するおそれがあります



取付禁止

- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと

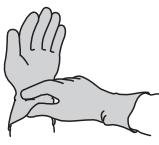
火災・故障の原因になります



手袋をする

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること

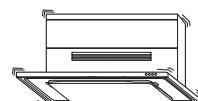
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付注意

- 室内循環フードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります



■ 取り付け前の調査と準備

1 取付面の強度確認

製品を支える強さが必要です。

製品質量	
750 幅	約 40kg
900 幅	約 42kg

※ 質量には循環ユニットが含まれています

■ 板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）

- 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板に室内循環フードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。

■ コンクリート、タイル壁の場合

- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

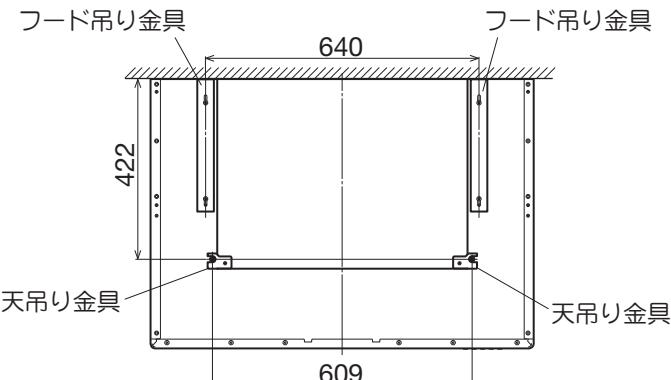
■ 土壁の場合

- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 吊りボルトの設置

2 本の吊りボルトを右図および製品寸法図（9 ページ）を参考して天井部梁に取り付けます。

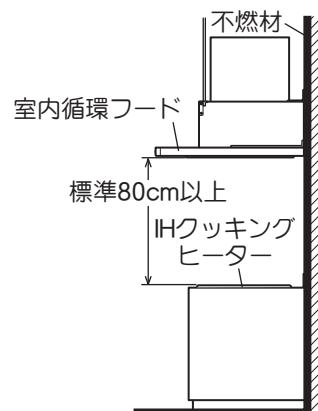
※ 吊りボルトは M10（市販品）を使用してください。



3 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、IH クッキングヒーターの上面から製品の下端まで 80cm 以上です。

※ 火災予防条例では、グリスフィルターの下端が IH クッキングヒーターの真上 80cm 以上必要となっています。



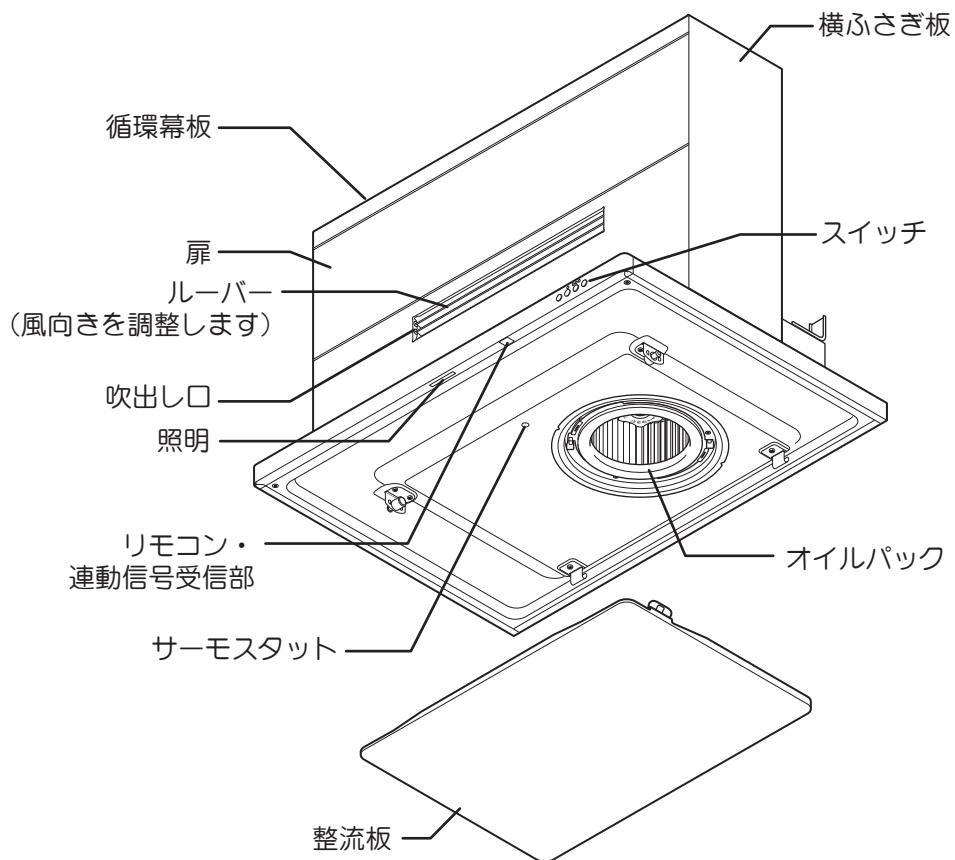
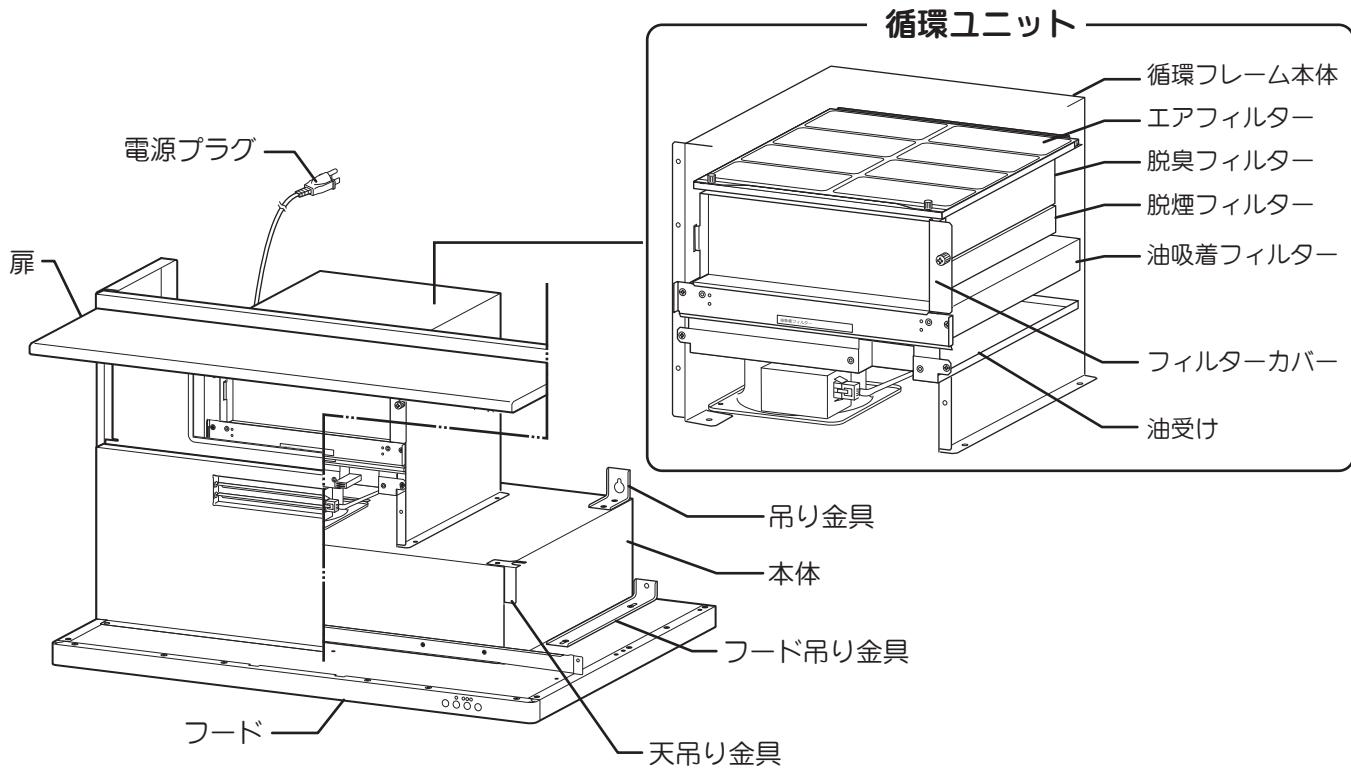
4 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願い

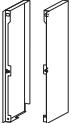
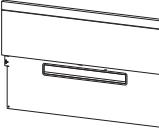
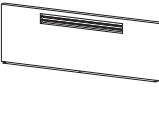
必ずアース工事（D 種接地工事）をしてください。室内循環フードが誤作動することがあります。

各部のなまえ

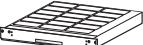


付属品

■ 室内循環フード本体付属品

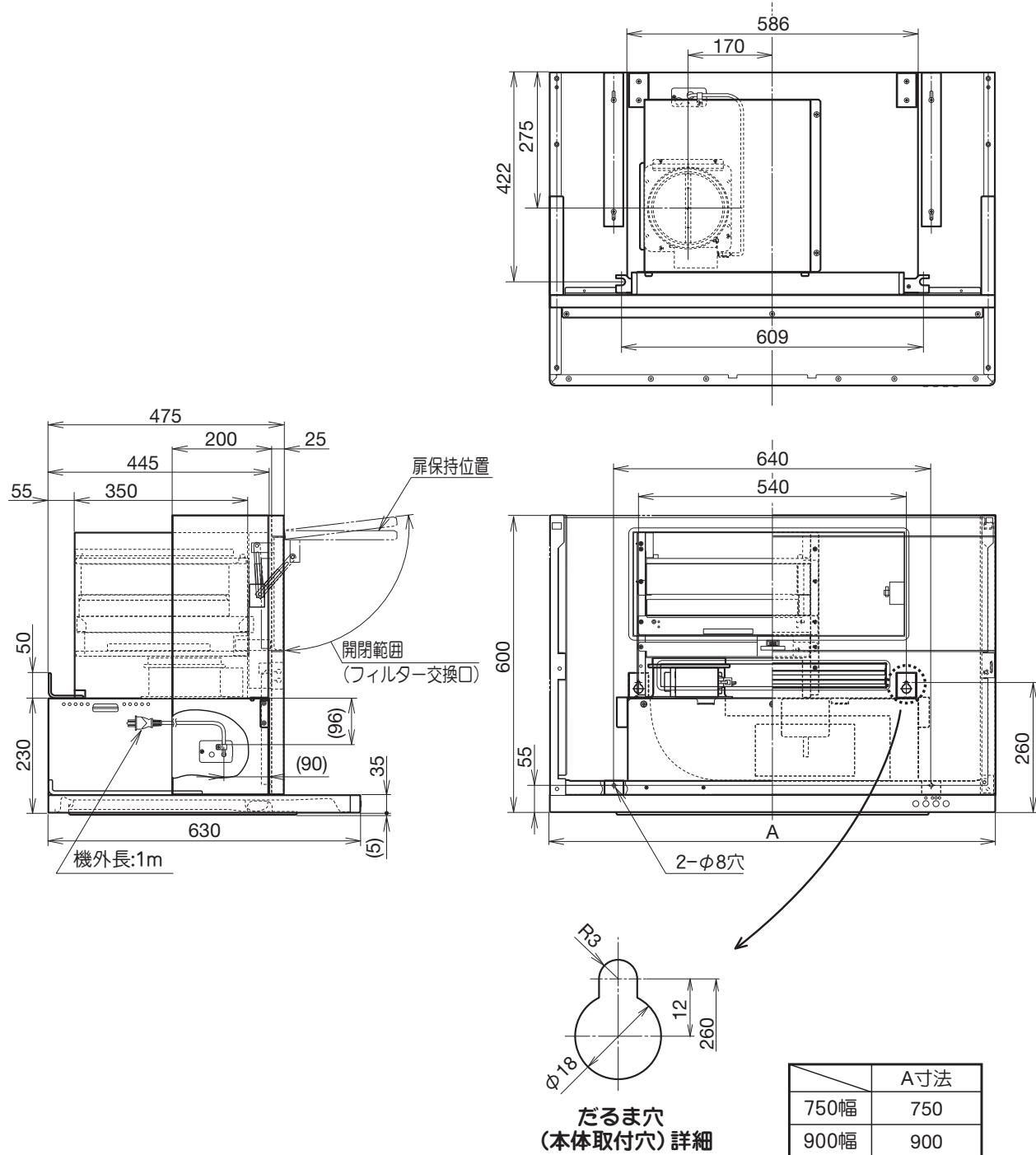
	座付ねじ $\phi 5.1 \times 45$ (4本)	本体の取り付けに使います。		排気口 (電動シャッター付) (1個)	本体と循環ユニットの接続に使います。 取付ねじは本体に取り付けられています。
	トラスねじ $M4 \times 10$ (8本)	循環フレーム本体、循環幕板の取り付けに使います。		横ふさぎ板 R/L (各1個)	幕板の横をふさぐのに使います。
	トラスねじ(黒) $M4 \times 10$ (6本)	循環幕板、油吸着フィルターの取り付けに使います。		ソフトテープ (1本)	排気口と油受けとのすきまをふさぐのに使います。
	トラスねじ $M4 \times 6$ (3本)	循環幕板の取り付けに使います。		循環幕板 (1個)	フードの上部に取り付けます。
	丸木ねじ $\phi 4.1 \times 16$ (2本)	横ふさぎ板の取り付けに使います。		循環幕板下 (1個)	循環幕板の下部に取り付けます。

■ 循環ユニット付属品 (別梱包)

	エアフィルター (1個)	循環ユニットの構成部品です。		油受け (1個) ※ 循環フレーム本体に取り付けられています。
	脱臭フィルター (1個)			循環フレーム本体 (1個)
	脱煙フィルター (1個)			フィルターカバー (1個)
	油吸着フィルター (1個)			

製品寸法図

(単位 : mm)



■ 取り付けかた

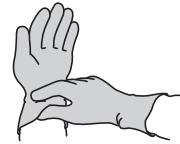
1. 付属品の確認

！ 注意



手袋をする

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をする
こと
鋼板の切り口や角でけがをするおそれが
あります



■ 付属品を確認します。

梱包箱から付属品を取り出し、8 ページの付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い

- ・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- ・保護用のクッション材と固定テープは「9. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし」(22 ページ) まではささないでください。
- ・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

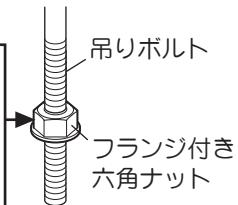
2. 本体の準備

■ 事前に取り付けた吊りボルトにフランジ付き六角ナットを取り付けます。

吊りボルト上側のフランジ付き六角ナットの位置
(天吊り金具取付位置) は製品寸法図を参考にあら
かじめセットしておくと後作業が容易になります。

※ 吊りボルトとフランジ付き六角ナットは取付作
業者側で手配願います。

上側のフランジ付
き六角ナットを天
吊り金具の取付位
置にセットしてお
きます。



取り付けかた

3. 本体の取り付け

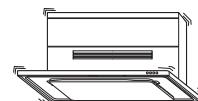
⚠ 注意



取付注意

- 室内循環フードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと

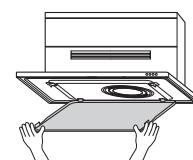
落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

- 部品の取り付けは確実におこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります

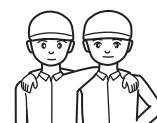


取付注意

- 作業は 2 人以上でおこなうこと

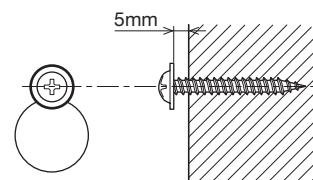
室内循環フードは約 40 / 42kg の重さがあります

※ この重さには循環ユニットが含まれています



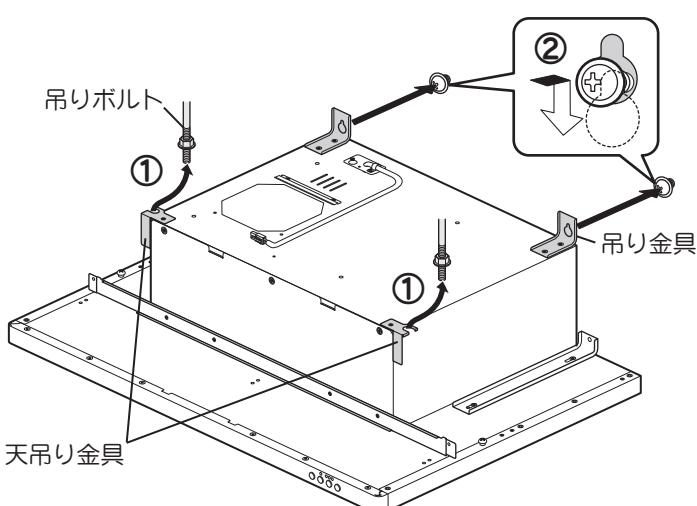
1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。

製品寸法図を参照し、吊り金具（本体左右 2 ケ所）のだるま穴位置（左右各 1 ケ所）に、付属の座付ねじ（Φ 5.1 × 45）を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。



2 本体を壁面に引っ掛けます。

本体を持ち上げて天吊り金具に吊りボルトを差し込みながら（①）、手順 1 で壁面に取り付けただるま穴用座付ねじに、吊り金具を引っ掛けます（②）。

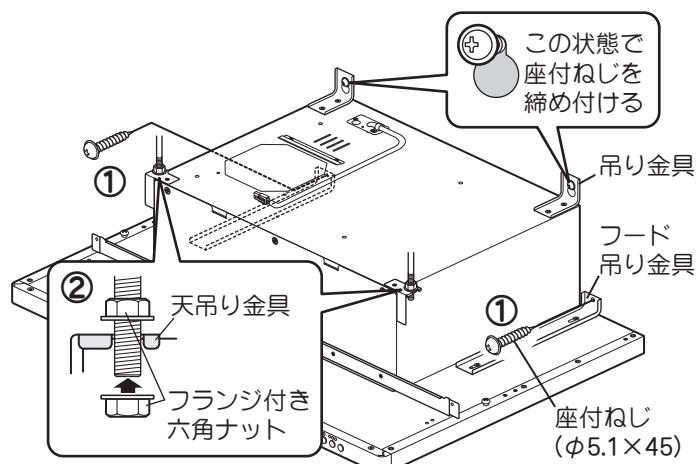


取り付けかた

3

本体を壁面に固定します。

- 付属の座付ねじ（ $\phi 5.1 \times 45$ ）2本で、フード吊り金具を固定します（①）。
- 吊りボルトにフランジ付き六角ナットを取り付け、天吊り金具を挟むように締め付けます（②）。
- ※ フランジ付き六角ナットは取付作業者側で手配願います。
- 吊り金具、フード吊り金具、天吊り金具の各部をそれぞれしっかりと締め付けて固定します。



お願い

本体の水平度を確認しながら固定してください。

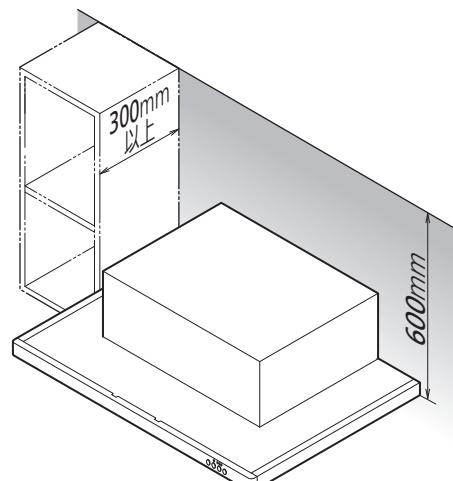
4

横ふさぎ板（R／L）を取り付けます。

取り付け前の寸法確認

フード下面から天井までの高さが600mm、また壁からキャビネット本体までの奥行が300mm以上あるかそれ確認してください。

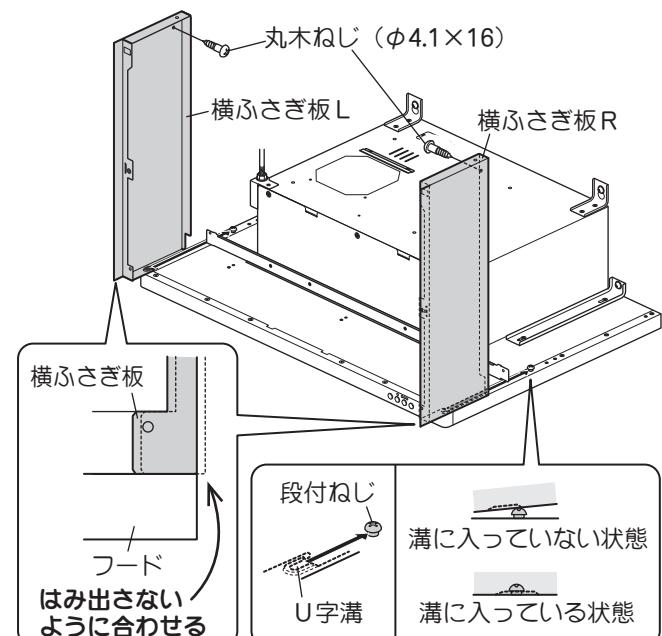
※ 奥行が300mmより短い場合は、別売の横幕板をご使用ください。



- 横ふさぎ板のR／Lに注意して、U字溝に本体の段付ねじを入れながらスライドさせます。
- 付属の丸木ねじ（ $\phi 4.1 \times 16$ ）各1本で固定します。

お願い

横ふさぎ板の端面がフード側面からはみ出さないように取り付けてください。



取り付けかた

5 排気口を取り付けます。

お願い

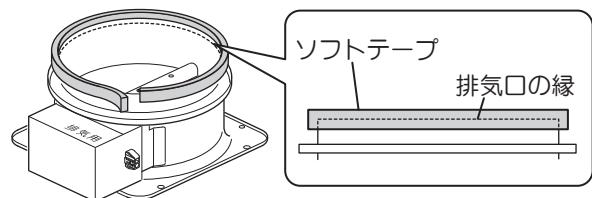
手動でシャッターを開閉すると故障の原因となりますのでおやめください。

1) 付属の排気口とソフトテープを準備します。

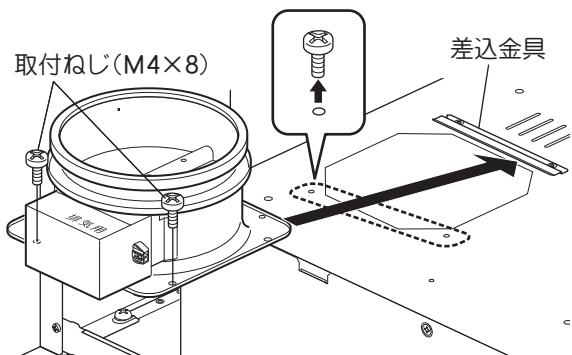
2) 排気口の縁から少しはみ出すように（右図参照）
ソフトテープを巻きます。

お願い

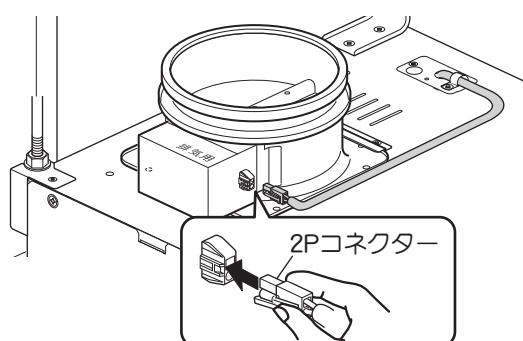
ソフトテープを右図の位置にしっかりと巻いてください。排気漏れの発生するおそれがあります。



3) 本体に取り付けられている取付ねじ（M4×8）
2本をはずし、排気口を図の向きで差込金具に差
し込み、はずした取付ねじ2本で取り付けます。



4) 本体部のコネクター付コード（2Pコネクター）
を排気口のコネクター接続部（2Pコネクター）
に接続します。



お願い

コネクターの接続について

コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

接続が不十分な場合、室内循環フードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。



取り付けかた

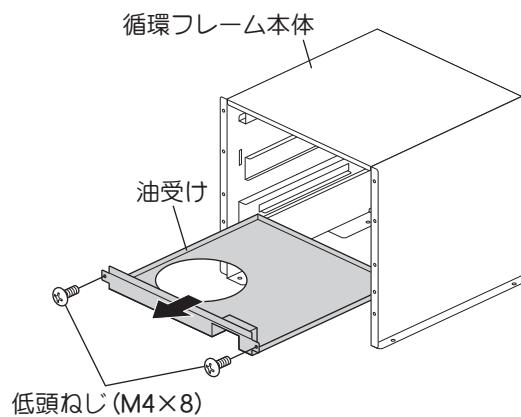
4. 循環ユニットの取り付け

梱包箱から循環フレーム本体、脱臭フィルター、脱煙フィルター、エアフィルター、油吸着フィルター、油受けを取り出し、8ページの付属品一覧により不足がないか確認してください。

1 油受けをはずします。

循環フレーム本体から低頭ねじ（M4×8）2本をはずし、油受けをはずします。

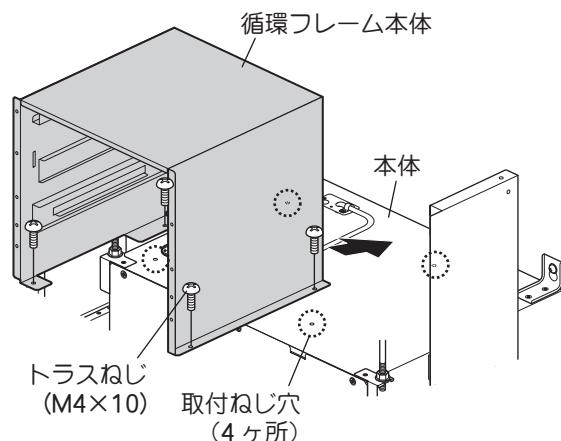
※はずしたねじは後で使用しますのでなくさないでください。



2 循環フレーム本体を本体天面に取り付けます。

1) 取付ねじ穴（4ヶ所）に合わせて循環フレーム本体を前側から差し入れます。

2) 付属のトラスねじ（M4×10）4本で固定します。



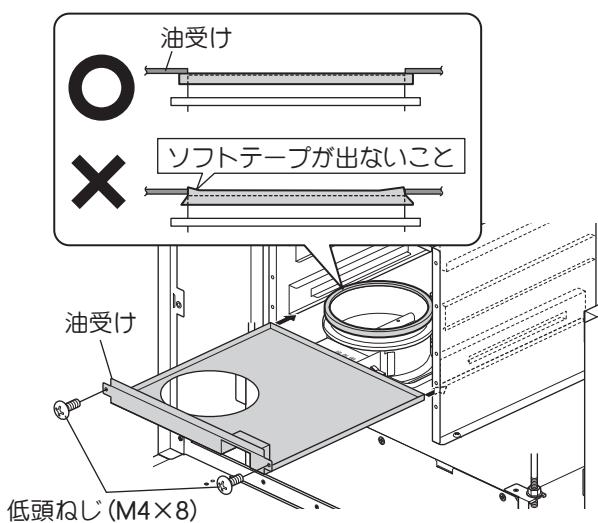
3 油受けを取り付けます。

1) 油受けを循環フレーム本体の一番下のレールに載せ、奥に突き当たるまで差し入れます。

2) 手順1ではずした低頭ねじ（M4×8）2本で油受けを固定します。

お願い

- 油受けの開口部（丸穴）と排気口が合っていることを確認してください。
- 油受けの開口部（丸穴）から排気口の縁に巻いたソフトテープが出ていないことを確認してください（右図参照）。



取り付けかた

5. 電気配線

警告

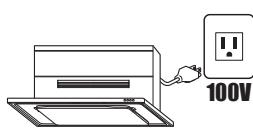


分解・修理・改造禁止



使用禁止

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



- 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



取付注意

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと

誤った配線工事は感電や火災の原因になります



アースを取り付ける

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

- 電源は専用のコンセント（2極接地極付差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「10. 試運転」（23 ページ）までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さ（機外長約 1m）を考慮し、設置してください。
- 必ずアース工事（D 種接地工事）をしてください。

取り付けかた

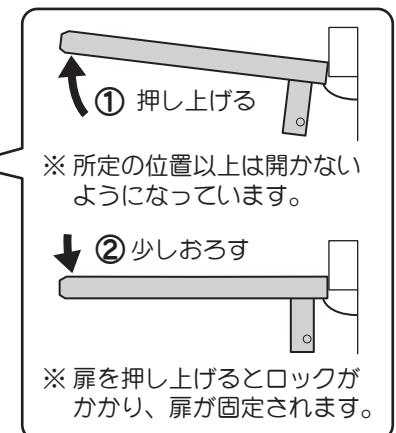
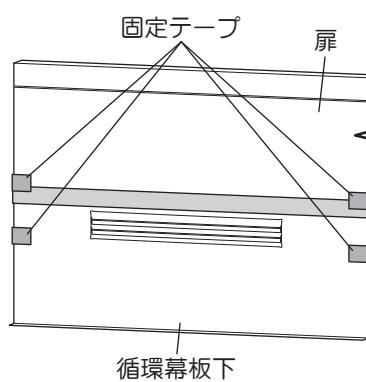
6. 循環幕板の取り付け

1 循環幕板下を取りはずします。

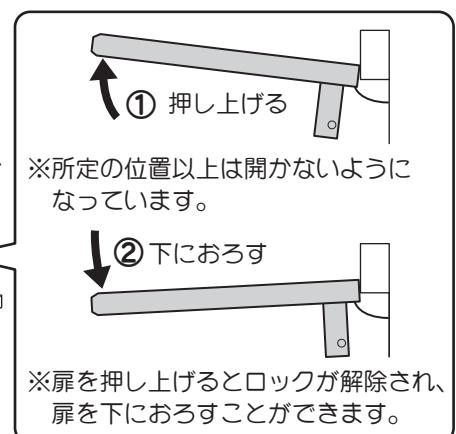
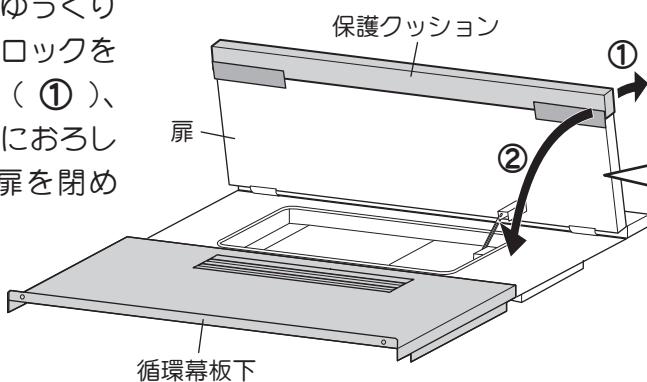
- 1) 左右4ヶ所の固定テープをはがし、扉をゆっくり上まで押し上げてから（①）少しおろす（②）と、扉が開いた状態でロックします。

お願い

扉を勢いよく押し上げると、幕板に干渉するおそれがあります。干渉させてしまうと、キズや打痕が生じる原因となりますので十分ご注意ください。

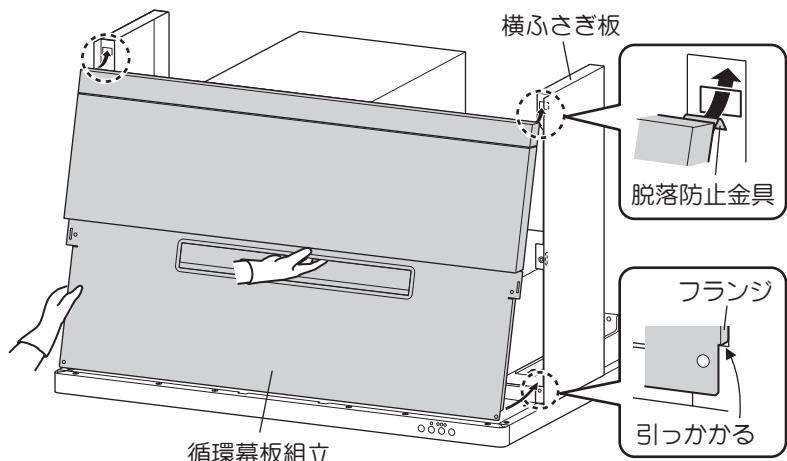


- 2) 扉下端の保護クッションと循環幕板下を取りはずし、扉をゆっくりと押し上げてロックを解除したあと（①）、ゆっくりと下におろして（②）扉を閉めます。



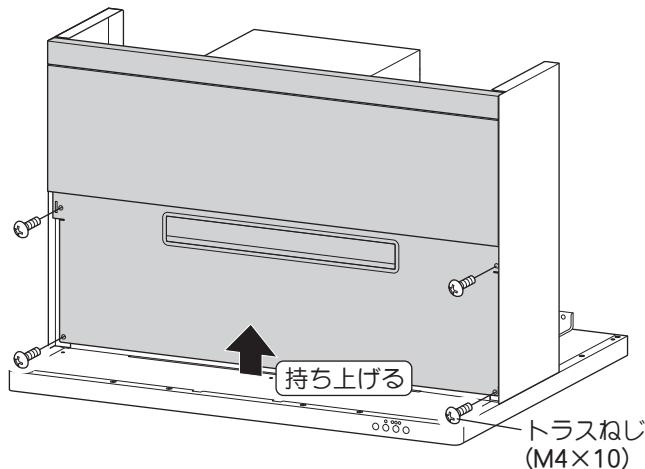
2 循環幕板を取り付けます。

- 1) 循環幕板組立の上部にある脱落防止金具を、横ふさぎ板の切り欠き部に引っかけます。その後、循環幕板組立を横ふさぎ板に押し当てると、循環幕板組立のフランジが補強棟に引っかかります。

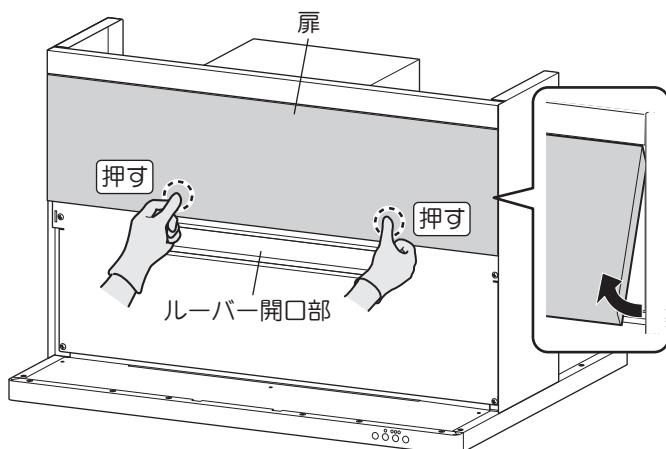


取り付けかた

- 2) 循環幕板組立を上に持ち上げながら、トラスねじ (M4 × 10) 4 本で固定します。



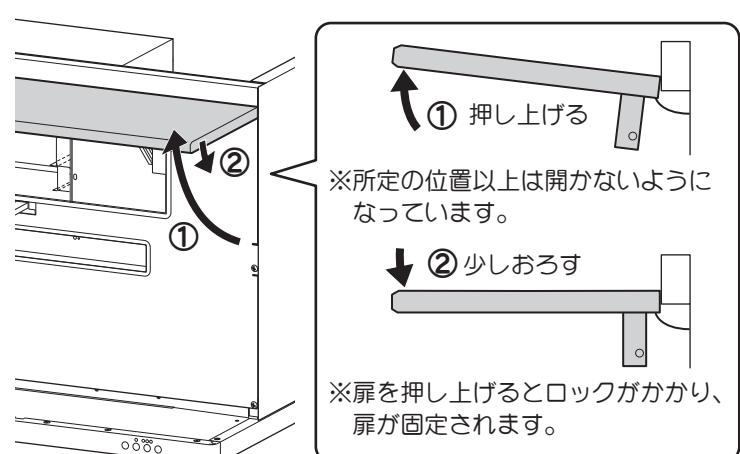
- 3) ルーバー両端の上部を両手で押し込むと、扉が少し開きます。本製品の扉は安全機構の特性上、開く際にやや強い押し込みが必要です。両手で押し込む際、左右それぞれ約 50N (約 5kgf) 程度の力が目安となります。(この押し込み抵抗は製品の異常ではありません。)



- 4) 扉を両手で持ち、ゆっくり上まで押し上げてから (①) 少しあろす (②) と、扉が開いた状態でロックします。

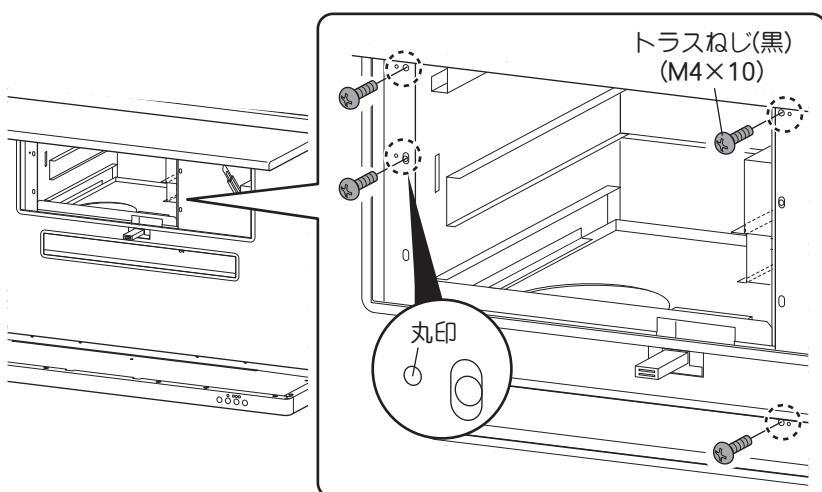
お願い

扉を勢いよく押し上げると、天井や幕板に干渉するおそれがあります。干渉させてしまうと、キズや打痕が生じる原因となりますので十分ご注意ください。

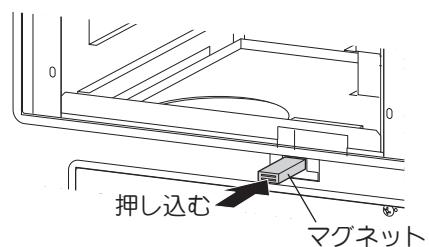


取り付けかた

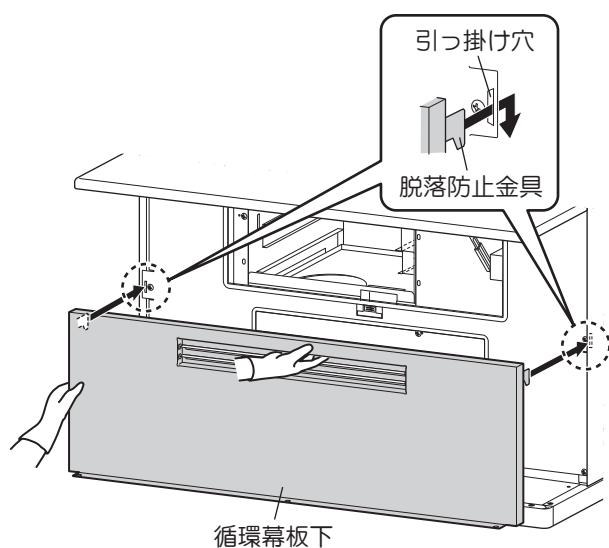
- 5) チャンバーBOXにある丸印の刻印がついた穴4ヶ所をトラスねじ(黒)(M4×10)4本で固定します。



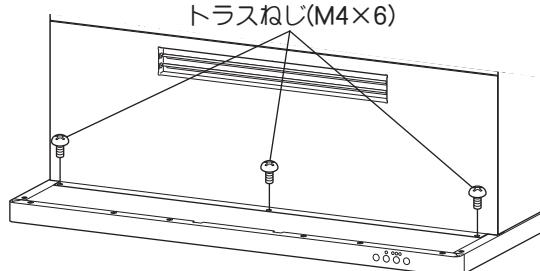
- 6) マグネットが飛び出さないよう、奥までしっかりと押し込みます。



- 7) 循環幕板下の脱落防止金具を幕板中央部の引っ掛け穴に差し込み、下に引き下げます。



- 8) 循環幕板下の下側を付属のトラスねじ(M4×6)3本で固定します。



取り付けかた

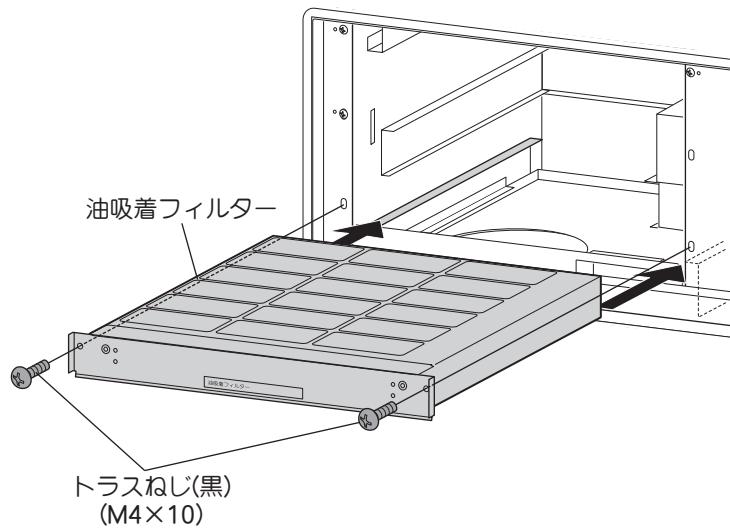
7. フィルターの取り付け

お願い

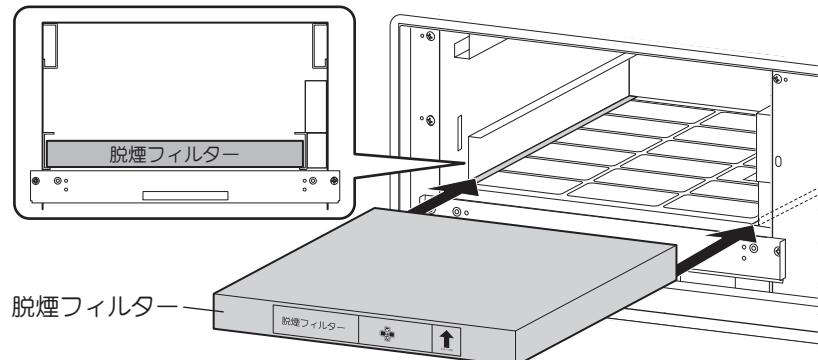
- 各種フィルター類の取り扱いには十分ご注意ください。落下させたり強くぶつけたりすると、フィルターが破損するおそれがあります。
- フィルターの粉が落ちる場合があります。粉が衣服等に付着した場合、落ちなくなることがありますので取り扱いには十分注意してください。

各フィルターを取り付けます。

- 1) 油吸着フィルターを図のように差し込み、付属のトラスねじ（黒）（M4×10）2本で固定します。

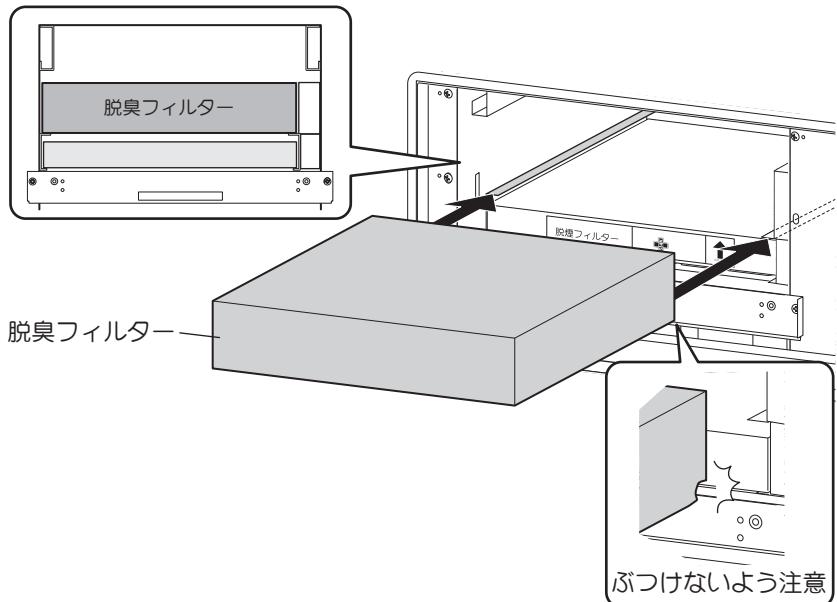


- 2) 脱煙フィルターを油吸着フィルターの上に差し込みます。



取り付けかた

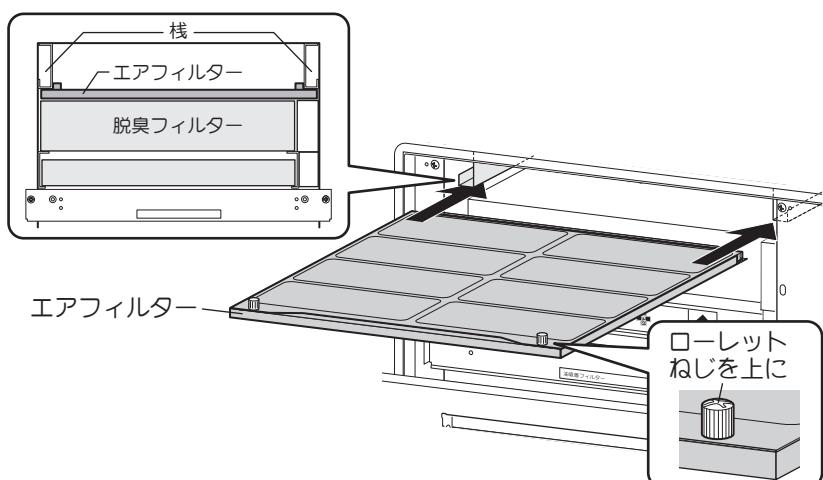
- 3) 脱臭フィルターを循環ユニット内部の桟等にぶつけないよう注意しながら、ゆっくりと挿入します。



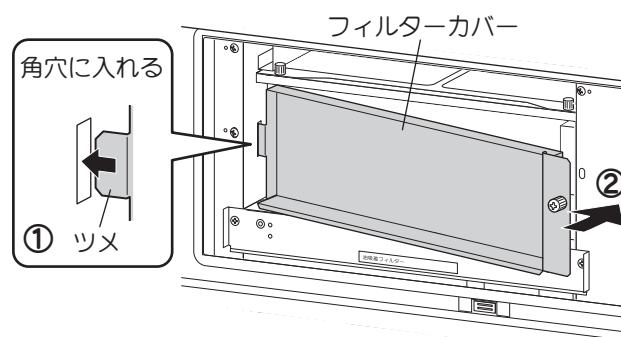
- 4) エアフィルターのローレットねじを上に向け、脱臭フィルターと左右の桟の間にゆっくりと挿入します。

お願い

エアフィルターを本体に取り付ける際は、必ずローレットねじが右図の位置になるようにして取り付けてください。異なる向きで取り付けた場合、脱臭フィルターをキズつけるおそれがあります。

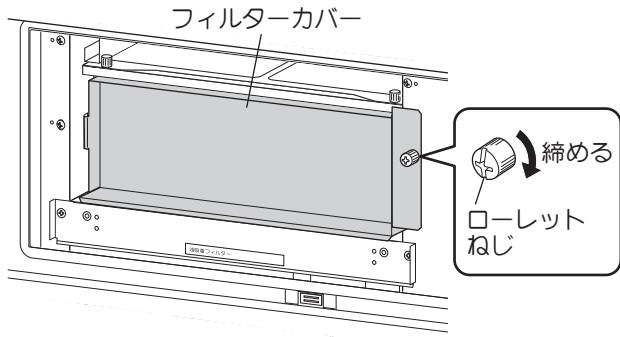


- 5) フィルターカバーのツメを角穴にしっかりと挿入し（①）、フィルターカバーをフィルターに押し当てます（②）。



取り付けかた

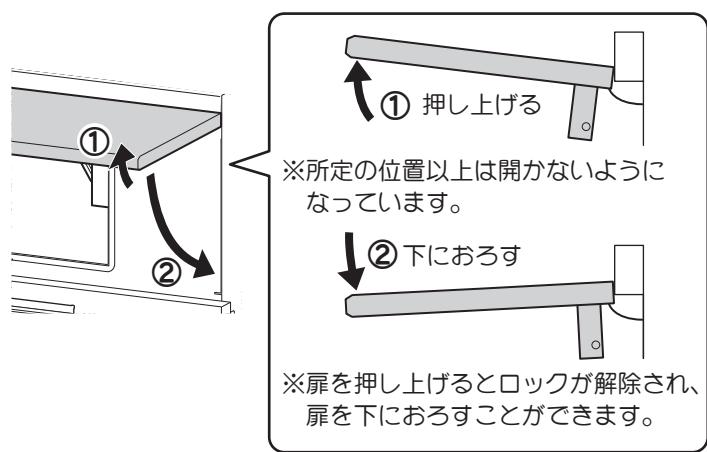
- 6) フィルターカバーにあるローレットねじを締めます。



- 7) 扉を両手で持ち、ゆっくり押し上げてロックを解除したあと（①）、ゆっくりと下におろして（②）扉を閉めます。

お願い

扉を勢いよく押し上げると、天井や幕板に干渉するおそれがあります。干渉させてしまうと、キズや打痕が生じる原因となりますので十分ご注意ください。

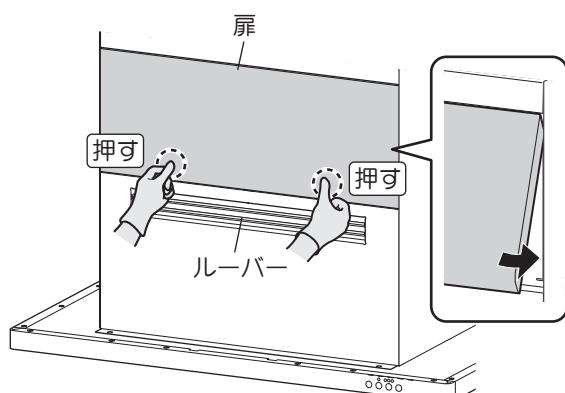


- 8) ルーバー両端の上部を両手で押し込み、扉を閉めます。

本製品の扉は安全機構の特性上、閉める際にやや強い押し込みが必要です。両手で押し込む際、左右それぞれ約 50N（約 5kgf）程度の力が目安となります。
(この押し込み抵抗は製品の異常ではありません。)

お願い

脚立の上で作業する際は、無理な姿勢で押し込みます、足元を安定させてからおこなってください。

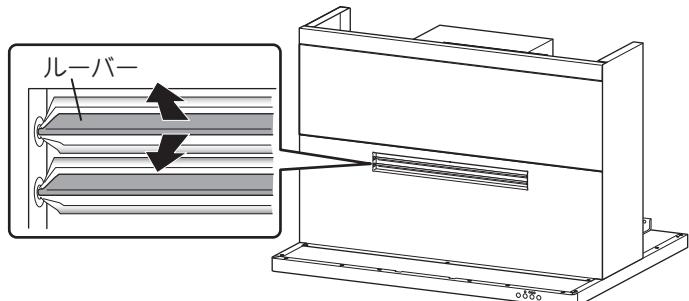


■ 取り付けかた

8. ルーバーの調整

ルーバーの向きを調整します。

循環幕板上部にある吹出しきのルーバーの向きを、適宜調整してください。

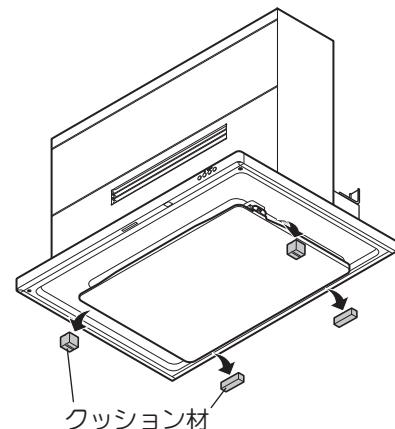


お願い

室内の天井に向けて風向調整をすると、天井が汚れる場合がありますのでご注意ください。

9. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし

- 保護用クッション材と整流板を固定しているクッション材（左右・後方）4ヶ所をはずします。
- 整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。
- 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルパックを固定しているテープをはがします。
固定テープをはがした後は整流板をもとどおりに取り付けてください。



取り付けかた

10. 試運転

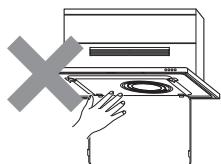
！注意



接触禁止

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと

けがをするおそれがあります



使用禁止

- 施工時に換気目的で本製品を運転しないこと

内装工事等で有機溶剤（塗料・シンナー・ボンド等）を使用中や使用直後に運転すると、脱臭フィルター等に吸着・蓄積され、実際の運転中に薬剤成分・臭いが吹出しがれ放出され、健康を害するおそれがあります
施工時は別途換気をおこなってください

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速度調整による室内循環が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 製品の吹出しがれから室内に循環され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されると全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。

11. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

